

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
環境保健予防医学 特論（講義）	藤吉 朗 廣田 麻子 神谷 隆一	（目標） 個人および集団の健康問題の解決法を修得し、応用できる。 （授業内容・方法） 個人および集団の健康が社会の体制、文化、経済等のあり方によって大きく変化することを理解させる。その上で健康に影響を及ぼす広義の環境要因を明らかにし、疾病予防や健康の維持増進に寄与する知見を検証する疫学的手法を修得させる。さらに、組織的な活動により、健康問題の解決手法を修得させる。 （授業計画） 個人および集団の健康が社会の体制、文化、経済等のあり方によって大きく変化することを理解させる。その上で健康に影響を及ぼす広義の環境要因を明らかにし、疾病予防や健康の維持増進に寄与する知見を検証する疫学的手法を修得させる。さらに、組織的な活動により、健康問題の解決手法を修得させる。（15 時間） （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
環境保健予防医学 特論（演習）		（目標） 健康評価としての健康尺度の信頼性・妥当性の検証、健康影響要因の分析のための分析疫学的方法を理解し、実際のデータに応用できる。 （授業内容・方法） 上記のねらいに基づいて、地域、学校、職域の各現場における妥当性・信頼性を有する健康評価尺度の開発方法の実際を学習する。さらには実際のデータを使って多変量解析等を用いた分析疫学的手法により疾病と社会環境要因、自然・生物環境要因の関連性を評価する手法を体得する。 （授業計画） 上記のねらいに基づいて、地域、学校、職域の各現場における妥当性・信頼性を有する健康評価尺度の開発方法の実際を学習する。さらには実際のデータを使って多変量解析等を用いた分析疫学的手法により疾病と社会環境要因、自然・生物環境要因の関連性を評価する手法を体得する。（15 時間） （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
公衆衛生学特論 （講義）	武田 好史	（目標） （授業内容・方法） （授業計画） （成績評価基準）
公衆衛生学特論 （演習）		（目標） （授業内容・方法） （授業計画） （成績評価基準）

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
地域医療マネジメント学特論(講義)	上野 雅巳	(目標) 医療マネジメントに必要とされる要素として、地域住民の健康度と社会環境との関連について理解を深める。 (授業内容・方法) 地域住民の健康度と社会環境との関連について、情報の収集・分析・評価と課題について、保健・医療・福祉・教育の領域横断的に概説する。 (授業計画) 住民の健康度と社会環境の関連について、重要な文献をもとに講述する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
地域医療マネジメント学特論(演習)		(目標) 地域住民の健康度と社会環境との関連について、保健・医療・福祉・教育の分野横断的に情報を収集・分析・評価する。 (授業内容・方法) 地域住民の健康度に関わる課題を設定し、先行研究の調査法を習得し、研究計画の作成について演習する。実際のデータをもとに、地域住民の疾病や健康度およびその地域特性について、記述疫学の手法を演習する。住民の健康度と環境要因との関連について、分析疫学の手法を演習する。 (授業計画) 文献データベースを用いた検索手法、統計パッケージを用いたデータ解析、地理情報科学の分析手法について、少人数で演習を予定している。なお、具体的な授業計画は、学生のニーズに応じて柔軟に対応する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
放射線医学特論(講義)	園村 哲郎 牧野 誠司	(目標) 画像診断と画像下治療 (IVR)の重要性を理解する。 (授業内容・方法) 画像診断と IVR について、スライドを用いて解説する。 (授業計画) 研究テーマに関連する内容から始める。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
放射線医学特論(演習)		(目標) 画像診断と IVR の理解を深める。 (授業内容・方法) 画像診断と IVR についての討論を行い、レポートを提出する。 (授業計画) 研究テーマに関連する内容から始める。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
臨床病態解析学特論(講義)	松岡 孝昭	(目標) 臨床検査は、臨床医学の中で重要な役割を果たしており、診断や治療の指標として不可欠なものであることを理解できる。 (授業内容・方法) 検査の意義、原理、誤差の原因、検査値の解釈につき、資料を用いて講述する。 (授業計画) 定期的に講義を受講することにより目標を達成できるよう計画する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
臨床病態解析学特論(演習)		(目標) 臨床検査について実践的な理解と解釈を行うことができる。 (授業内容・方法) 臨床検査の分野からテーマを決めて、文献検索や検討会を行なう。また実験や検査の手技を学ぶ。 (授業計画) 指導教官のもと上記方法により学習する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
精神医学特論（講義）	紀本 創兵	（目標） 生物・心理・社会的な視点から精神医学と医療について、そして多職種連携医療についての基本的な理解を含める。 （授業内容・方法） 精神症候学を理解するとともに、診断分類方法および主要な精神疾患について生物学的及び心理学的な理解を深め、薬物療法、心理療法、認知行動療法などの適応と有効性の根拠手について講義を行なう。 （授業計画） 主任指導者と学生が相談の上、月に2回程度行なう。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
精神医学特論（演習）		（目標） 心理検査、症状評価尺度など臨床症状評価を理解し習熟する。 （授業内容・方法） 治療計画の立案ならび治療効果の評価に実際に参加し、適切な評価尺度の運用から実践的な理解を得る。 （授業計画） 主任指導者と学生が相談の上、月に2回程度行なう。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
リハビリテーション医学特論（講義）	田島 文博	（目標） リハビリテーション医学は全人間的観点に立脚し、疾病という臓器レベルの機能と構造の障害だけでなく、活動レベルの障害を対象とする。リハビリテーション医学の基本となる基礎医学と臨床について講義する。 （授業内容・方法） 急性期から慢性期におけるリハビリテーションのみならず、障害者の病態生理学を基礎として、かつ、これまでの調査・研究を紹介しながら、障害者の究極のリハビリテーションである障害者のスポーツを含む最新のリハビリテーション医学について講義する。 （授業計画） 1年次に開講する。講義日程は別途通知する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
リハビリテーション医学特論（演習）		（目標） リハビリテーション関連職の問題点として、職業人として職務は果たせているものの、一歩進めて機能障害の病態生理を解明した上で、リハビリテーションの方法を研究する手法が教育されていない点がある。そこで、職場で日夜取り組んでいる臨床上の課題をテーマとしてとりあげ、科学的手法が身につくように指導する。職場で経験した課題を討議し、根本的な問題を探り、その解決方法を職場に持ち帰るという実践的な実習とする。 （授業内容・方法） 講演会や研究討議会に出席し、積極的に討議に参加し、互いの意見を理解しあうことを基本的な態度とする。その上で臨床上の課題や疑問をテーマ化し担当教員およびチューターと議論しながら科学的な手法で対応し、定量化できるように取り組む。 （授業計画） 1年次後期に開講する。講義日程等は別途通知する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
麻酔科学特論（講義）	川股 知之	（目標） 麻酔の3要素（意識消失・鎮痛・不動化）についてその生理的基盤を理解する。 （授業内容・方法） 吸入麻酔薬・静脈麻酔薬・局所麻酔薬の作用機序とそれを用いた麻酔方法及びモニターについて教科書を用いて講義する。 （授業計画） 1. 吸入麻酔薬、2. 静脈麻酔薬、3. 局所麻酔薬、4. 麻酔方法、5. モニタリングの順に講義し、レポートを提出する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
麻酔科学特論（演習）		（目標） 麻酔の3要素（意識消失・鎮痛・不動化）について教科書の知識をもとに最新のエビデンスを自ら検索し、まとめて発表する。 （授業内容・方法） 各テーマについて論文を収集しまとめてレビュー形式にして、プレゼンテーションする。 （授業計画） 1. 吸入麻酔薬、2. 静脈麻酔薬、3. 局所麻酔薬、4. 麻酔方法、5. モニタリングの順に行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
救急・集中治療医学特論（講義）	加藤 正哉	（目標） 1) 救命の連鎖に基づく心肺蘇生法の背景を理解する。 2) 救急薬剤の管理/運用を学ぶ。 （授業内容・方法） 1) 最新的心肺蘇生科学に関する講義と論文抄読。 2) 救急認定薬剤師に求められる事項の講義。 （授業計画） 1)、2) 教室抄読会や定期的に開催される勉強会に参加し、蘇生科学に関連する知識や薬剤関連の知識をアップデートする。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
救急・集中治療医学特論（演習）		（目標） 1) 心肺蘇生法を修得し広く社会に普及する。 2) 救急現場・集中治療病棟における薬剤業務の確立。 （授業内容・方法） 1) 学内・学外で開催される様々な心肺蘇生講習会に指導者として参加し知識と教育手法を習得する。 2) ER・ICUにおける勉強会で、関連領域の発表を行う。 （授業計画） AHAをはじめとする講習の他に、一般市民、学生を対象する指導にも参加する。 ドクターヘリを含む院内救急関連部門の薬剤関連の管理を通じて、救急認定薬剤師の業務を修得する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
臨床感染制御学特論（講義）	小泉 祐介	（目標） 細菌・ウイルス・真菌・原虫などによる感染症の病態を理解し、臨床における問題を提示出来る能力を身につける（臨床感染症学）。また院内感染や感染制御の基本である標準予防策・経路別感染予防策・消毒滅菌・環境清掃・医療関連感染症について学ぶ（感染制御学）。 （授業内容・方法） 臨床感染症学や感染制御に関する知識・実践すべき事項について講述する。 （授業計画） 主に教授が講義する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
臨床感染制御学特論（演習）		（目標） 臨床感染症学、感染制御学領域の事例について学び、かつ最新の知識を習得する。 （授業内容・方法） 院内感染制御に関する知識・実践すべき事項について最新の文献をもとに発表、討論を行う。 （授業計画） 主に教授、准教授、講師が指導する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
総合内科学特論（講義）	廣西 昌也	（目標） 1）地域を守る医師として、地域住民全体を対象とした保健・医療・介護・福祉事業への包括的な理解と参画が必要であることを理解する。 2）医療安全や感染制御など病院管理のシステムやチーム医療について理解する。 （授業内容・方法） 総合診療医の6つのコアコンピテンシー（人間中心の医療・ケア、包括的統合アプローチ、連携重視のマネジメント、地域思考アプローチ、公益に資する職業規範、診療の場の多様性）を中心に、総合診療のありかたについて講義を行う。 （授業計画） 学生と相談の上、定期的な講義計画を立てる。 （成績評価基準） 講義の出席度やレポートの内容により、優・良・可・不可の評点とし、可以上で単位を認める。
総合内科学特論（演習）		（目標） 臨床の現場において総合診療の役割がいかに実践されているかを体験する。 （授業内容・方法） 病院内カンファレンスに参加し、高齢者のニーズにあわせた治療方針や他職種との連携がどう行われているかを学ぶ。また地域の連携会議や医療安全推進委員会、感染対策委員会などに出席し、病院管理の面から総合的な医療の実験を経験する。それぞれの場面で指導教官より適宜解説や説明を受け、学生との討議を含めたディスカッションを加える。 （授業計画） 学生と相談の上、定期的な講義計画を立てる。 （成績評価基準） カンファレンスの出席度やレポートの内容により、優・良・可・不可の評点とし、可以上で単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
総合外科学特論 (講義)		(目標) ----- (授業内容・方法) ----- (授業計画) ----- (成績評価基準)
総合外科学特論 (演習)		(目標) ----- (授業内容・方法) ----- (授業計画) ----- (成績評価基準)
法医学特論(講義)	近藤 稔和	(目標) 死因を理論的な考察に基づいて構成することが出来る。 ----- (授業内容・方法) 死因論についておよび脳死を取り巻く様々な問題について講述する。 ----- (授業計画) 死因論に関する文献抄読を担当させ自己の研究に基づく考察を行わせる。 ----- (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
法医学特論(演習)		(目標) 遺伝形質に基づく個人識別の方法を理解し解説することが出来る。 ----- (授業内容・方法) 遺伝形質に基づく個人識別について講述する。 DNA 多型解析の基本手技を実習により修得する。 ----- (授業計画) 個人識別に関する文献抄読を担当させ自己の研究に基づく考察を行わせる。 ----- (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
医学教育・集団医 療学特論 (講義)	村田 顕也	(目標) 医学教育の理念を学ぶ。 ----- (授業内容・方法) 医学教育に関する教育倫理、教育手法、教育評価の方法について講述す る。集団医療学については、集団を対象にした疾病予防、治療法につい て EBM の創出をはかるための方法論を講述する。 ----- (授業計画) 講義形式で行う。 ----- (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
医学教育・集団医 療学特論 (演習)		(目標) シミュレーション教育の実践を学ぶ。 ----- (授業内容・方法) 医学教育については、臨床技能教育、シミュレーション教育の開発、教 育評価法の開発についての演習を行い、文献的考察を踏まえ議論を行う。 集団医療学については、地域における生活習慣病の状況および介入につ いての分析方法と解析手法についての演習を行い、文献的考察を踏まえ 議論を行う。 ----- (授業計画) スキルスラボの機器を用い、病態に応じたシミュレーション教育を立案 する。 ----- (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
医療データサイエンス学特論(講義)	下川 敏雄	(目標) 医学系研究を実施するうえで留意すべき規則・指針(臨床研究法、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針)を理解するとともに、科学的根拠に基づく研究計画の立案について習得させる。 (授業内容・方法) パワーポイントを用いた座学での講義を中心に実施するとともに、レポート等により、その習熟度を評価する。 (授業計画) 人を対象とする医学系研究、臨床研究、臨床試験、治験において必要な基本的知識を講義する。さらに、科学的根拠に基づく研究計画の立案(FINER,PICO,PECO)に関する講義を行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
医療データサイエンス学特論(演習)		(目標) 医学系研究では、適切な研究計画の立案が最も重要な要件の一つである。本演習では、科学的根拠に基づく研究計画の立案をコンセプトシートの作成を通じて体得することを目標とする。 (授業内容・方法) コンセプトシートを用いた研究計画の立案とその内容のプレゼンテーションをグループディスカッションを通じて実施する。 (授業計画) コンセプトシート作成のための基本的内容に関する説明を実施したうえで、グループに分かれて、予め設定された(あるいは自らが計画した)研究を実施するための計画を立案する。立案した内容は、プレゼンテーションにより発表する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
生殖病態医学特論(講義)	井籠 一彦	(目標) 婦人科癌の病態・治療、妊娠維持機構と胎児胎盤の発育・機能、生殖内分泌機能について理解する。 (授業内容・方法) 婦人科癌の病態や治療法、妊娠維持機構と胎児胎盤の発育・機能、生殖内分泌機能についてレクチャーをおこなう。 (授業計画) 週1回程度おこなう。(学生の都合に合わせて日程調整する)。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
生殖病態医学特論(演習)		(目標) 婦人科癌の病態や治療法、妊娠維持機構と胎児胎盤の発育・機能、生殖内分泌機能について文献を抄読し、実験をおこない、データを発表する。 (授業内容・方法) 抄読会・勉強会をおこなう。また指導医のもとで実験をおこなう。 (授業計画) 週2-3回おこなう。(指導医および学生の都合に合わせて調整する)。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
生殖保健学特論(講義)		(目標) (授業内容・方法) (授業計画) (成績評価基準)
生殖保健学特論(演習)		(目標) (授業内容・方法) (授業計画) (成績評価基準)

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
発達小児医学特論 (講義)	徳原 大介	(目標) 発達・成熟する過程にある小児特有の生理学、生化学を理解する。 (授業内容・方法) 小児の消化器学(粘膜免疫学を含む)、循環器学、神経学、腎臓学、血液・悪性腫瘍学、未熟児・新生児学の講義を行う。 (授業計画) 消化器(粘膜免疫学を含む)、神経、腎臓、血液・悪性腫瘍、未熟児・新生児の各分野に絞って授業する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
発達小児医学特論 (演習)		(目標) 小児に特有の疾患の原因、成立機序に関する文献から最新情報を得る。 (授業内容・方法) 上記の目的のために、最新の文献の抄読と討論を行う。 (授業計画) 各研究者が専門分野を確定させる。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
小児保健学特論 (講義)		(目標) (授業内容・方法) (授業計画) (成績評価基準)
小児保健学特論 (演習)		(目標) (授業内容・方法) (授業計画) (成績評価基準)
細胞生物学特論 (講義)	金井 克光	(目標) 細胞生物学の基礎および、脂質代謝、細胞内取り込みについて理解する。 (授業内容・方法) 細胞生物学の基礎および脂質代謝、細胞内取り込みに関する最新の知見を学ぶ。 (授業計画) 細胞生物学の教科書を輪読させ、脂質代謝、細胞内取り込みに関する最新の論文を毎週木曜日にセミナーで発表、討議させる。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
細胞生物学特論 (演習)		(目標) 細胞生物学で行われている研究の手法について理解し、実践できるようにする。 (授業内容・方法) 基本的な組織学的手法(蛍光抗体法、HE染色)、生化学的手法(ウェスタン法、脂質定量、エライザ法)、分子生物学的手法(PCR法)、細胞生物学的手法(細胞培養)を身につける。 (授業計画) 毎週木曜日にセミナーを行い、研究についてまとめたものを発表し討議させる。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
分子機能形態学特論（講義）	森川 吉博	（目標） 神経機能形態学、及び生体システム制御学について理解できる。 （授業内容・方法） 神経細胞の構造と機能、神経系の発生・分化、軸索輸送、神経伝達物質、受容体、中枢および末梢神経系、自律神経系の構造などについて講義する（神経機能形態学）。また、摂食調節、代謝調節、ストレス応答などの生体調節機構の分子メカニズムについて講義する（生体システム制御学）。また、種々のファミリーのサイトカイン、及びその受容体の構造と機能、特に免疫系と神経系や代謝・内分泌系との相互作用における役割について講義する。 （授業計画） 神経機能形態学から始め、生体システム制御学、サイトカイン学に進む。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
分子機能形態学特論（演習）		（目標） 生体調節機構について、神経細胞生物学、神経発生学、神経解剖学の側面から重要な文献についての抄読と討論ができる。基本的な実験技術について必要な文献を読み理解できる。 （授業内容・方法） 摂食調節、代謝調節、ストレス応答などの生体調節機構について、神経細胞生物学、神経発生学、神経解剖学の側面から重要な文献についての抄読と討論を行う。また、免疫組織化学、in situ hybridization 法、細胞培養、種々の blotting、遺伝子のクローニングなど、基本的な実験技術について講義し、実技指導を行なう。 （授業計画） 生体調節機構についての神経細胞生物学、神経発生学、神経解剖学から始め、次に基本的な実験技術の指導を行なう。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
システム神経生理学特論（講義）	金桶 吉起	（目標） 脳機能研究のための種々の手法に関して、それらのメリットとデメリットを理解する。 （授業内容・方法） 現在神経科学で用いられている主にヒトを対象とする研究について、その手法を最新の論文や教科書にて学ぶ。 （授業計画） 教科書を指定し、それによって方法論を学ぶ。次にそれらの手法を使った最新の研究論文を熟読し、理解を深める。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
システム神経生理学特論（演習）		（目標） 種々の研究手法について使用方法の概略を理解する。 （授業内容・方法） 実際のデータにてコンピューターを用いて解析する。 （授業計画） デジタル信号処理の基礎を実際に解析して理解する。そのあとデータ処理を自ら行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
統合分子生理学特論（講義）	中田 正範	（目標） 生体の個々の機能を理解する。 個々の生理機能の理解をもとに、それらがどのように統合され、生体全体の中で機能しているのかを理解する。 （授業内容・方法） 標準的な生理学のテキストを用いて講義を行う。 （授業計画） 個々の生理機能について、その基盤となる分子機能と関連づけて講義を行うことで統合された生理機能を分子レベルで理解できるように工夫する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
統合分子生理学特論（演習）		（目標） 統合された生理機能がどのように研究されているのかを理解する。 （授業内容・方法） 生理学に関連した最新の文献の精読を行う。 （授業計画） 定期的に担当者が英文原著論文を精読した上で発表を行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
機能調節薬理学特論（講義）	西谷 友重	（目標） 医学研究を推進する上で必要となる薬理学の知識（薬物治療学・臨床薬理学）を習得させる。 循環薬理を中心とした薬理学研究について解説し、研究能力及び高度専門職を担うにふさわしい能力を習得させる。 （授業内容・方法） 薬理学一般、薬物治療学の基礎および循環薬理における最新の知見について講義を中心に実施する。 （授業計画） 1) 薬物治療学の基礎について講義する。 2) 臨床薬理学として、薬物の作用機序および毒性について講義する。 3) 循環薬理学の中からいくつかのカテゴリー（心不全、不整脈、虚血性心疾患など）を選択し、それぞれの薬力学および最近の治験について講義する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
機能調節薬理学特論（演習）		（目標） 医学研究を推進する上で必要となる情報収集能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を修得させる。 （授業内容・方法） 一般薬理作用・臨床薬理学ならびに最新の循環薬理学について、学生が主体的に自ら調べた内容について発表を行う。それら内容について担当教員がディスカッションを行うことで、知識を深める。 （授業計画） 1) 薬理学一般演習：薬物作用に関する成書論読し、討論する。 2) 循環薬理学演習：講義内容に関する内外の文献の検索、発表および討論を行う。 3) 臨床薬理学演習：臨床薬理学に関する重要なテーマについて、内外の文献の検索、発表および討論を行う。 これら演習を通して、医学研究を推進する上で必要となる情報収集能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を修得させる。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
代謝生物化学特論 (講義)	井原 義人	(目標) 生体物質の代謝とその医学的意義について理解する。 (授業内容・方法) 生体物質の代謝とその医学的意義について講述する。 (授業計画) 生体分子(核酸、タンパク質、糖質、脂質など)の構造と機能について学び、生体あるいは細胞機能の制御・統括の分子機構と医学との関連について学習する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
代謝生物化学特論 (演習)		(目標) 生体物質の代謝とその医学的意義について考察できる。 (授業内容・方法) 文献抄読会、リサーチセミナーへの参加を通じて演習を行う。 (授業計画) 生体物質の代謝における諸問題についての文献解説、研究テーマの発表、討論を行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
分子遺伝学特論 (講義)	井上 徳光	(目標) (1) 遺伝子とは何か?どのように働くのか?など分子生物学・分子遺伝学的な基本的な知識や考え方を理解する。 (2) 遺伝子や分子の異常によって病気が引き起こされる発症メカニズムを理解する。 (3) 遺伝子や分子の異常による病気の遺伝子診断技術を理解する。 (授業内容・方法) 様々な遺伝子疾患を例にとりながら、遺伝子疾患の分子メカニズム・診断技術を PowerPoint や印刷物を提供して紹介する。 (授業計画) 遺伝子疾患から遺伝子や分子を理解するのに必要な知識や方法を学習する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
分子遺伝学特論 (演習)		(目標) 遺伝子や分子の異常によって引き起こされる様々な疾患の発症メカニズムとその分子遺伝学的解析・診断方法を理解し、さらなる解析に発展させる論理的な能力を習得する。 (授業内容・方法) 分子遺伝学に関連した最新の論文を検索・精読し、討論する。 (授業計画) 遺伝子や分子の異常によって引き起こされる疾患を論理的に理解し、さらに必要な解析方法・技術を討論する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
発生制御医学特論 (講義)		(目標) ----- (授業内容・方法) ----- (授業計画) ----- (成績評価基準)
発生制御医学特論 (演習)		(目標) ----- (授業内容・方法) ----- (授業計画) ----- (成績評価基準)
分子免疫学特論 (講義)	改正 恒康	(目標) 自然免疫と獲得免疫がいかに制御されているか、またその破綻によりどのような病態が生じるか、その機構を分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解する。 ----- (授業内容・方法) 樹状細胞がどのような機能を介して自然免疫と獲得免疫を制御しているのか、本研究室の仕事を中心に最新の知見を交えて紹介する。パワーポイントを使用する。 ----- (授業計画) 研究を立案、遂行するのに必要な学問的背景を習得させる。 ----- (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
分子免疫学特論 (演習)		(目標) 免疫学の基本的な方法論、考え方を習得する。 ----- (授業内容・方法) 最近の原著論文を抄読して議論する。パワーポイントを使用する。 ----- (授業計画) 研究を立案、遂行したり、得られたデータを議論したりするのに必要な論理的思考能力を習得させる。 ----- (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
分子病態解析学特論（講義）	橋本 真一	（目標） 最新の分子生物学・ゲノム科学の手法を取り入れた解析法と、悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などについてその適応方法を理解する。 （授業内容・方法） 最新の分子生物学・ゲノム科学の手法を取り入れた解析法について説明し、その適応に関して講義する。 （授業計画） ゲノム関連の教科書や印刷物に加え最新の論文を参考にし、方法論とその適用疾患について学習する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
分子病態解析学特論（演習）		（目標） 悪性腫瘍、炎症疾患、感染症に関して、最新の分子生物学・ゲノム科学の手法を取り入れた解析を行い、その適応法について理解する。 （授業内容・方法） 最新の分子生物学・ゲノム科学の手法を取り入れた解析法に関した論文を検索、精読し討論する。 （授業計画） 最新の分子生物学・ゲノム科学の手法を取り入れた解析法上記の研究手法を実際の実験を通して体得する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
生体分子解析学特論（講義）	茂里 康	（目標） 質量分析法、紫外・可視吸光法等の機器分析原理とそれぞれの手段を用いると、どのような情報が得られるか理解する。 （授業内容・方法） 質量分析法、紫外・可視吸光法等を用いて、生体関連分子の構造、反応性、分子内・分子間相互作用がどのように明らかにされるかを講義する。 （授業計画） 質量分析法、紫外・可視吸光法等を用いると、生体関連分子の構造、反応性、分子内・分子間相互作用について、どのような情報が得られるか、具体例を引きながら講義する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
生体分子解析学特論（演習）		（目標） 質量分析法、紫外・可視吸光法等の機器分析原理を理解し、その分析手法を習熟する。 （授業内容・方法） 質量分析法、紫外・可視吸光法等を用いて、生体関連分子の構造、反応性、分子内・分子間相互作用がどのように明らかにされるかを実際の分析例を通して演習する。 （授業計画） 質量分析法、紫外・可視吸光法等を用いる生体関連分子の分析例について演習する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
病原微生物学特論 (講義)	西尾 真智子	(目標) 病原微生物学、特にウイルスの基礎を理解する。 (授業内容・方法) 主なウイルスの増殖様式を講述する。 (授業計画) ウイルスの増殖過程を順に講述し、最終的に増殖様式を理解する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
病原微生物学特論 (演習)		(目標) ウイルス研究の基礎的な文献が理解できる。 (授業内容・方法) 研究対象とするウイルスの基礎的文献を抄読し、発表する。 (授業計画) 研究対象とするウイルスに関する文献を理解するため、内容に関して、 討論をし、それをまとめて発表する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
分子神経科学特論 (講義)	平井 秀一	(目標) 神経細胞分化について、細胞学、分子生物学、遺伝学の観点から理解する。 (授業内容・方法) 主として大脳皮質の発生をテーマとした講義を行う。 (授業計画) 講義項目：神経幹細胞、神経前駆細胞、投射神経、介在神経、グリア (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
分子神経科学特論 (演習)		(目標) 神経細胞分化に関する研究の経緯、現状を理解する。 (授業内容・方法) 関連の原著論文を読み、内容をまとめて発表する。 (授業計画) まず過去に発表された重要な論文を題材とし、これらの理解が進んだ時 点で、最新の論文の中から題材を選ぶ。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
糖尿病・内分泌代 謝内科学特論 (講 義)	松岡 孝昭	(目標) 内分泌・代謝疾患の病態生理を理解し、各疾患における臨床上的の問題点 を把握する。 (授業内容・方法) 糖尿病学・内分泌学の広範囲にわたる疾患の病因・病態・治療法について 概説するとともに、各疾患における未解決の問題点やその解決策につき 討論する。 (授業計画) ①糖尿病の原因、②糖尿病の病態、③糖尿病の治療、④内分泌疾患の病 因、⑤内分泌疾患の病態、⑥内分泌疾患の治療 などにつき講義する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。
糖尿病・内分泌代 謝内科学特論 (演 習)		(目標) 内分泌・代謝疾患の問題点の解決に向け、有用な新知見を探索するため の能力を身に付ける。 (授業内容・方法) 糖尿病学・内分泌学の臨床・基礎論文を通して最新知見を把握すること、 分子生物学的手法や臨床データの解析方法を習得するためのベンチ ワーク・デスクワークを実践する。 (授業計画) 糖尿病・内分泌学疾患に関して興味ある課題を選択させ、その課題に必 要な手技・知識を習得する。得られたデータに関して発表・討論を行い、 論理的思考を習得する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点 で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
消化器内科学特論 (講義)	北野 雅之	(目標) 消化器内科学を支える消化器腫瘍学(臨床疫学、病因論、発癌分子機構、腫瘍生物学、浸潤転移の分子機構)、消化器内視鏡学(構造と原理、画像診断法、最先端治療法)、消化器病態学(消化器疾患の分子機構および診療の現況、将来の展望)。 (授業内容・方法) 消化器腫瘍学、消化器内視鏡学、消化器病態学に関する講義・セミナー。 (授業計画) 年数回、講義およびセミナーを実施する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
消化器内科学特論 (演習)		(目標) 消化器内科学を支える消化器腫瘍学、消化器内視鏡学、消化器病態学などの領域に関するトピックスをテーマに、最新の文献に基づいてレポートを作成、これを対象に発表、討論を行う事により、本領域の問題解決の手法、考え方を具体例を通じて習得する。 (授業内容・方法) 細胞生物学および分子生物学の基礎的実験手法、ファントムモデル、大動物モデル用いた内視鏡・超音波実験手法、基本的 <i>in vivo</i> および <i>in vitro</i> 実験手法、臨床試験実施計画書作成法。 (授業計画) 上記研究手法を実際の実験・研究を通じて体得する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
呼吸器内科学特論 (講義)	山本 信之	(目標) 各種呼吸器疾患(COPD、喘息、間質性肺炎、感染症、悪性腫瘍など)の病態の理解。 (授業内容・方法) 各種呼吸器疾患の理解に必要な基本的な事項を学んでいただく。 (授業計画) 呼吸器の構造および機能、各種診断方法、現在の標準的治療、分子生物学等を系統的に解説した上で、今後求められる新規治療法、診断法について系統的に解説する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
呼吸器内科学特論 (演習)		(目標) 呼吸器診断手技(画像診断、内視鏡、呼吸機能検査など)の修得。 (授業内容・方法) 実際の手技については指導教官が直接指導を行い、その意義や所見について学んでいただく。 (授業計画) これまでの知見を踏まえた上での新規問題点を提起し、それを解決するための基礎実験もしくは臨床研究の立案方法を習得していただく。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
循環器内科学特論 (講義)	田中 篤	(目標) 動脈硬化の発生機序や病態を理解する。 (授業内容・方法) 冠動脈イメージング、病理学、冠動脈生理学に関する講義・セミナーを行う。 (授業計画) 年数回、講義およびセミナーを実施する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
循環器内科学特論 (演習)		(目標) 冠動脈イメージング、冠動脈病理学、冠動脈生理学に関する最新知見をテーマに、問題の科学的解決手法の修得、文献に基づいた英語論文の作成、英語による発表や討論を行う能力の習得を目標とする。 (授業内容・方法) 指導教官が、動物モデル、病理学的手法、日常臨床症例を用い、直接指導を行い、その意義や所見について学んでいただく。 (授業計画) 新規の問題点を提起し、それを解決するための文献的検討、基礎実験、臨床研究の立案方法を習得していただく。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
脳神経内科学特論 (講義)	伊東 秀文	(目標) 難治性神経疾患を克服するためには、神経疾患の病態を理解し、神経変性のプロセスを解明し、病的過程に介入する分子標的にアプローチすることが有望であること理解する。 (授業内容・方法) これまでの先行研究で明らかになった神経変性疾患の発症機序について教授する。 (授業計画) 現在開発が進められている神経変性疾患の新規治療法の現状を解説する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
脳神経内科学特論 (演習)		(目標) 難治性神経変性疾患の剖検脳を病理学的検討を行う。 (授業内容・方法) アルツハイマー病、ALS、パーキンソン病、紀伊 ALS-PDC 等の難治性神経変性疾患の剖検脳と対象患者から作製した疾患特異的 iPS 細胞由来神経細胞を用いた組織化学・免疫組織化学的研究 (授業計画) ホルマリンまたは凍結検体を用いて自ら切片を作製し、HE 染色や抗リン酸化タウ、抗 TDP-43 抗体を用いた免疫染色を行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
腎臓・体内環境調節内科学特論（講義）	荒木 信一	（目標） 腎臓の体内環境調節に果たす役割を理解すること。 （授業内容・方法） 腎機能が低下していく過程で体内環境に狂いが生じていくが、この狂いを可能な限り修復しようとするホメオスタシスによる適応現象がみられる。この過程を担う中心臓器の一つに腎臓がある。また、進化の過程から腎臓は肺・骨とならび比較的新しい臓器で高度に分化している。この腎臓の体内環境調節に果たす役割を中心に講義を行う。特に血圧の維持と体液・電解質恒常性の意義とリン過剰による血管石灰化を含む老化現象について教授する。 （授業計画） 毎週火曜日に講義を行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
腎臓・体内環境調節内科学特論（演習）		（目標） 慢性腎不全モデル動物もしくは患者データを用いて解析を行い腎臓の体内環境調節における役割を理解すること。 （授業内容・方法） 1) 5/6 腎臓摘出モデル（慢性腎不全モデル）を作成する。 2) 上記モデルに塩負荷を行い生体の反応を観察する。腎臓で産生されるレニン・腎臓を標的臓器とするアンジオテンシン II とアルドステロン作用を理解検証する。 3) 上記モデルにリン負荷を行い骨組織と血管を中心に生体反応を観察する。リン負荷により惹起される加齢現象（血管石灰化を中心とする血管障害）発症機序を検証する。さらに同時に進行する生命予後に関する腎臓の果たす役割を検証する。 4) 造血因子エリスロポエチンは腎臓で産生され腎保護作用を有しているが、上記モデルを用いてその保護作用の機序について解析する。 5) 2) - 4) の現象が、実際の臨床でも進行していることを患者データの分析より導き出し、対応策を考察する。 （授業計画） 毎週水曜日に実験結果ならびに解析結果について討論を行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
血液内科学特論（講義）	園木 孝志	（目標） 血液疾患の診断や治療に必要な「形態」「細胞表面抗原」「遺伝子異常」の知識を身につける。同種造血幹細胞移植における免疫病態を理解する。 （授業内容・方法） 本講義では血液内科学の歴史を振り返り、既存の疾患単位・診断法・治療法が如何にして確立されてきたのかを既存のテキストを用いて解説する。同種造血幹細胞移植は、免疫学的抗腫瘍効果が実証されている有効な治療法である。しかしながら、同種造血幹細胞移植に伴って患者体内に発生する免疫反応は「両刃の剣」であり、本治療法の成否の鍵は免疫反応の制御にかかっている。本講義では同種造血幹細胞移植におけるこれまで知られている免疫病態を述べる。 （授業計画） 修士課程修了の規定に準拠して行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
血液内科学特論（演習）		（目標） 血液疾患の実地臨床で使用されている形態診断法、フローサイトメトリーによる細胞表面抗原同定法、PCR 法や各種プロット法、細胞培養法を身につける。 （授業内容・方法） 和歌山県立医科大学附属病院血液検査室にて実際の患者標本をみて、形態診断する。また、細胞株を用いてフローサイトメトリーによる細胞表面抗原同定法、PCR 法や各種プロット法、細胞培養法を血液内科学講座研究室にて行う。 （授業計画） 修士課程修了の規定に準拠して行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
リウマチ・膠原病科学特論（講義）	藤井 隆夫	（目標） 全身性自己免疫疾患であるリウマチ・膠原病の特徴である自己抗体・抗核抗体の測定法およびその結果の解釈に関し理解を深めることを目的とする。 （授業内容・方法） リウマチ・膠原病の臨床免疫学的知識が習得できるよう、疾患の歴史に加えて臨床的特徴および免疫学的検査異常を実際の患者データを参照しながら講義する。 （授業計画） 定期的にスライドを用いた授業および実験室での実習を行う。また院内における研究発表も行ってもらえるよう指導する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
リウマチ・膠原病科学特論（演習）		（目標） 研究室において、実際の患者血清を用いて、自己抗体・抗核抗体の測定が自身でできるようにする。またその感度や特異度も含めて、臨床的な意義を示すことができるようにする。 （授業内容・方法） 間接蛍光抗体法、ELISA などの測定技術を培養細胞や患者血清を用いて指導する。 （授業計画） 上記の研究実習を、当科の実験室を用いて行う。また測定がうまくいかなかったときの検討も、研究室のスタッフと適宜ディスカッションを行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
胸部外科学特論（講義）	西村 好晴	（目標） 心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科の総論として代表的な疾患の病態、診断法、外科治療を理解する。 （授業内容・方法） 心臓血管外科では体外循環、人工臓器、各疾患の治療などについて講義を行う。呼吸器外科では肺癌、乳腺外科では乳癌の治療について講義を行う。 （授業計画） 心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科の3分野について順次講義を行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
胸部外科学特論（演習）		（目標） 心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科の手術適応、手術術式などを理解する。 （授業内容・方法） 心臓血管外科、呼吸器外科における低侵襲手術の理解を深める。乳腺外科におけるセンチネルリンパ節生検の意義、QOL を重視した乳房再建の理解を深める。 （授業計画） 心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科の3分野の症例について順次、治療方針を計画し、実際の手術見学を行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
消化器外科学特論 (講義)	川井 学	(目標) 消化器外科に関する専門的知識を身につけ、より高度な外科腫瘍学に対する理解力をつけることを目標とする。 (授業内容・方法) 消化器癌に対する腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状胞療法)、抗がんウイルス療法、癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関する講義形式の内容とする。 (授業計画) 定期的開催される講義を通じて理解出来るように計画する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
消化器外科学特論 (演習)		(目標) 消化器外科に関する専門的知識を身につけ、より高度な外科腫瘍学に対する理解力を演習により発展させることを目標とする。 (授業内容・方法) 消化器癌に対する腫瘍特異的免疫療法(特にワクチン療法、樹状胞療法)、抗がんウイルス療法、癌の浸潤・転移に関する分子生物学的アプローチの方法に関するテーマについて討論とレポートを求める。 (授業計画) 定期的開催される講義から学習テーマを提案し、レポートの提出を求める。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
脳神経外科学特論 (講義)	中尾 直之	(目標) 脳神経外科総論(病態性生理、診断学、神経画像診断学) 脳神経外科疾患の病態を理解し、現病歴、神経現症、神経画像診断から正確な診断を学ぶ。 (授業内容・方法) セミナー形式で脳神経外科疾患の病態を学ぶ。 (授業計画) 適宜時間調整を行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
脳神経外科学特論 (演習)		(目標) 脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊髄疾患、機能的脳神経外科疾患(不随意運動、三叉神経痛、顔面痙攣など)の症例に接し、実際の診断・治療を学ぶ。 脳腫瘍、脳血管障害などの顕微鏡手術を見学し、脳神経外科手術の要点を学ぶ。 (授業内容・方法) セミナー形式で診断・治療の実際を学ぶ。 (授業計画) 適宜時間調整を行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
整形外科科学特論 (講義)	山田 宏	(目標) 整形外科全般についての最新の診療知識と技術を理解する。 (授業内容・方法) 運動器系の正常構造と機能、主な運動器疾患の病因・病態生理・症候・診断・治療を解説する。 (授業計画) 主に教授、准教授、講師が講義する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
整形外科科学特論 (演習)		(目標) 臨床の場で、整形外科疾患の診断と治療の実際を学ぶ。 (授業内容・方法) 運動器疾患の診断と治療に求められる診断・検査・手術手技を修得する。 (授業計画) 主に教授、准教授、講師が講義する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
脊椎脊髄病学特論 (講義)	中川 幸洋	(目標) 脊椎脊髄病学全般についての最新の診療知識と手術方法などを理解する。 (授業内容・方法) 脊椎脊髄の解剖生理、バイオメカニクス、主な脊椎脊髄疾患の病因、病態生理、症候、診断、治療につき解説する。 (授業計画) 主に教授、准教授、講師が講義する。 (成績評価基準) 出席、レポート等による総合評価を行い、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
脊椎脊髄病学特論 (演習)		(目標) 臨床の場において脊椎脊髄病学の診断と治療の実際を学ぶ。 (授業内容・方法) 脊椎脊髄病疾患の診断と治療に求められる診断、検査、手術手技を習得する。 (授業計画) 主に教授、准教授、講師が講義する。 (成績評価基準) 出席、レポート等による総合評価を行い、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
形成外科学特論 (講義)	朝村 真一	(目標) 形成外科の取り扱う疾患および概念を理解する。 (授業内容・方法) 先天性、後天性疾患を解説する。 (授業計画) 口唇口蓋裂、小耳症、合指症などを口述する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
形成外科学特論 (演習)		(目標) 形成外科における手術手技の特徴を理解する。 (授業内容・方法) 創傷治癒および縫合法について解説する。 (授業計画) 再生医療を含めた形成外科の基本手技について口述する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
泌尿器科学特論 (講義)	原 勲	(目標) 泌尿器科は社会の高齢化に伴い今後もますます必要とされる領域である。基本的な泌尿器科疾患(泌尿器科悪性腫瘍、尿路結石症、排尿障害、腎移植)に関する知識および基本的な概念を習得することを目標とする。 (授業内容・方法) 基本的な泌尿器科疾患に関する授業を行う。また泌尿器科が行っている症例検討会や抄読会に出席し知識の習得に努める。 (授業計画) 泌尿器科悪性腫瘍(腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、精巣腫瘍)、尿路結石症、排尿障害、腎移植に関する授業を行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
泌尿器科学特論 (演習)		(目標) 泌尿器科疾患に対する代表的な手術に関して理解する。 (授業内容・方法) 泌尿器科が行う手術に関して代表的なものを見学する。また手術用のシミュレーターがあるのでそれらを用いてシミュレーションを行う。 (授業計画) TURBT、TUL、PNL、RARP、RAPN、膀胱全摘除術などの手術を見学する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
視覚病態眼科学特論(講義)	雑賀 司珠也	(目標) 眼科学総論を理解する。 (授業内容・方法) ① 眼疾患の内科的治療：ぶどう膜炎や緑内障などの内科的治療が第一選択になる疾患の理解、習得。 ② 眼疾患の外科的治療：白内障などの外科的治療を要する疾患の理解、習得。 ③ 眼疾患の遺伝子治療：アデノウイルスベクターを用いた眼線維化疾患に対する線維化抑制の可能性の探究。 ④ ロービジョンケア：視覚障害者の QOL や QOV (Quality of Vision) について理解を深める。 (授業計画) 主に教授、准教授、講師が講義する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
視覚病態眼科学特論(演習)		(目標) 臨床現場を通して診断、治療を習得する。 (授業内容・方法) ① 臨床現場での診断、治療。 ② 動物眼を用いてのウェットラボ。 ③ アデノウイルスベクターによる遺伝子組み換え治療。 ④ 臨床現場を通して視覚障害者の立場を経験、理解する。 (授業計画) 主に教授、准教授、講師が指導する。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論（講義）	保富 宗城	（目標） 1) 抗菌薬治療理論を理解する。 2) 上気道感染症の病態を理解する。 3) 聴覚・平衡覚理論を理解する。 4) 音声・言語障害、嚥下障害の理論を理解する。 5) 頭頸部腫瘍の就学的治療理論を理解する。 ----- （授業内容・方法） 1) 抗菌薬治療 抗菌薬の PK/PD 理論の理解と取得。 2) 上気道感染症の病態 肺炎球菌とインフルエンザ菌を中心に細菌感染の機序と薬剤耐性機序の理解と習得。 3) 聴覚・平衡覚 難聴の診断、人工内耳理論、手術について学習する。平衡機能理論のスポーツ医学への応用について学習する。 4) 音声・言語障害、嚥下障害 言語や発声障害に対する治療、嚥下のメカニズムおよび誤嚥の病態と治療、難聴治療の知識の習得。 5) 頭頸部腫瘍の治療 頭頸部腫瘍に対する集学的治療および再建外科治療の理解をする。 ----- （授業計画） 各研究者および専門医による総論講義を行ったうえ最新の論文抄読を加えた考察を行い、総括的カンファレンスを月に 1 回行いグループでの発表と討論を行う。 ----- （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論（演習）		（目標） 1) 抗菌薬の PK/PD 理論を習得する。 2) 上気道感染症の難治例での治療対策を習得する。 3) 聴覚・平衡覚理論の習得。 4) 音声・言語障害、嚥下障害の治療およびリハビリテーションの習得。 5) 頭頸部癌に対する再建外科手術の実際について実習するとともに術後リハビリテーションを習得する。 ----- （授業内容・方法） 1) 抗菌薬の適正使用 実際の臨床現場での抗菌薬の PK/PD 理論の理解と取得。 2) 上気道感染症の難治化と治療 肺炎球菌とインフルエンザ菌を中心に動物モデルを用いた研究者から講述演習する。 3) 聴覚・平衡覚理論の習得 人工内耳埋め込み患者のリハビリテーションの実際を演習する。スポーツ選手における平衡機能について講述演習する。 4) 音声・言語障害、嚥下障害の治療 喉頭微細手術による治療、声帯可動手術などを演習する。さらに嚥下障害の検査、リハビリテーションの実際について実習する。 5) 頭頸部腫瘍の治療 頭頸部癌に対する再建外科手術の実際について実習するとともに術後リハビリテーションの実際を演習する。 ----- （授業計画） 各研究者および専門医による総論講義を行ったうえ最新の論文抄読を加えた考察を行い、総括的カンファレンスを月に 1 回行いグループでの発表と討論を行う。 ----- （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
口腔顎顔面外科学特論（講義）	松村 達志	（目標） 多岐にわたる歯科口腔外科疾患の病態を理解し、臨床における問題を提示出来る能力を身につける。 （授業内容・方法） 歯科口腔外科で扱う粘膜疾患、先天異常、外傷、腫瘍等の疾患について解説する。 （授業計画） 主に教授、准教授、講師が講義する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
口腔顎顔面外科学特論（演習）		（目標） 臨床の場で歯科口腔外科疾患の診断、治療の実際を習得する。 （授業内容・方法） 歯科口腔外科で扱う疾患の診断と治療に求められる診断、検査、手術手技を解説する。 （授業計画） 主に教授、准教授、講師が指導する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
皮膚病態学特論（講義）	神人 正寿	（目標） 皮膚疾患の病態を理解する。 （授業内容・方法） 皮膚疾患の病因・病態・治療法について概説する。 （授業計画） ①皮膚疾患の病因、②皮膚疾患の病態、③皮膚疾患の治療 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
皮膚病態学特論（演習）		（目標） 皮膚疾患の病態を理解し、皮膚科学の発展に寄与する。 （授業内容・方法） 皮膚疾患の病因・病態・治療法に関する検査データや効果判定などの評価法を学び、関連する文献を読んで自験例の結果を考察し、今後の課題を明らかにする。 （授業計画） 皮膚疾患の病因・病態・治療法に関する最新の知見からテーマを選び、必要なデータ解析と文献的考察を行ない、学会や論文に発表する。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
分子病理学特論（講義）	江幡 正悟	（目標） 細胞の増殖と生存に関わる細胞内シグナル伝達機構を述べることができる。線維化機構やがんの発生、増殖浸潤機構の基本的な分子メカニズムを述べることができる。 （授業内容・方法） 臓器の線維化疾患の分子メカニズムやがん細胞の増殖・浸潤に関する事項について、スライド等を使用して講義する。 （授業計画） 週1日、1時間単位の講義を行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
分子病理学特論（演習）		（目標） 実験動物や細胞株を用いて、組織や細胞内に起こる細胞増殖やアポトーシスの形態学的または生化学的変化の分析を行うことができる。 （授業内容・方法） 動物の線維化モデル、または培養がん細胞株を用いた実習を行う。 （授業計画） 週3日、2時間単位の实習を行う。 （成績評価基準） 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。

○専門教育科目

授業科目	指導教授	目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価基準
人体病理学特論 (講義)	村田 晋一	(目標) 様々な疾患における細胞・組織の変化や異常について、その特徴や形成機序、および病理発生や臨床的関係の観点から学ぶ。 (授業内容・方法) 疾患、特に腫瘍の細胞組織形態について病理総論的な講義を行う。 (授業計画) 各院生の研究内容に合わせて行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。
人体病理学特論 (演習)		(目標) 細胞・組織の形態変化や異常を顕微鏡下で解析するための手法について学ぶ。 (授業内容・方法) 教官の指導のもと、各院生の研究内容に必要な研究手法を院生自らが行う。 (授業計画) 各院生の研究内容に合わせて行う。 (成績評価基準) 出席度やレポートなどにより総合的に評価し、優・良・可・不可の評点で可以上に単位を認める。